

新しい現代病に「スマホ依存症」(WHO)



サイバー犯罪防止教室を実施

今年度も、七月十三日(金)に五・六年生を対象に「サイバー犯罪防止教室」を実施。本部署の生活安全課・比嘉係長を中心に三名の署員が来校し、教室を開催して頂いた。

風登原

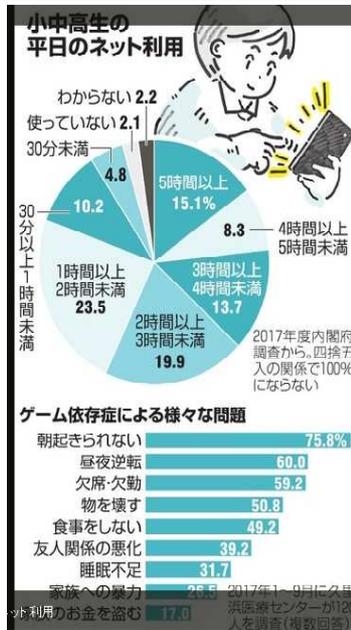
第15号

校長:上間忠彦

- 学校教育目標)
- 自ら考え進んで学習する子
 - 思いやりの心で行動する子
 - 進んでほたらき
 - 最後までやりぬく子
 - 進んで体を鍛える子

単なるやり過ぎと依存症の違いは、自分で制御できるかに加え、心身の健康悪化、遅刻や不登校、家庭内暴力などの問題が起きていくかいかで判断

もはや我々の生活に欠かせなくなったスマートフォン。非常に便利なのは間違いないのですが、あまりにも多機能すぎてすっかりスマホが手放せなくなってしまう人もかなり多いでしょう。



薬物乱用防止教室

●七月十八日(水)実施
■六年生を対象に本部書



樋口進院長は「始めるのが若いほど依存症になりやすい」と警告する。子どもは脳が十分に発達しておらず、快感や刺激を求める欲求が理性に勝る傾向があるという。

ネット依存症には、SNSなどへの依存症も含まれるが、圧倒的に多いのはゲーム依存症で、センターの患者の9割を占める。主流のオンラインゲームは内容が常に更新され、際限なく続けてしまうという。

樋口院長は「勉強やスポーツに比べて簡単に達成感が得られ、依存に陥りやすい」と指摘する。

センターでゲーム依存症と診断された人は、朝起きられない(76%)、昼夜逆転の生活(60%)、学校や会社を休む(59%)などの問題を抱えていた。物を壊す(51%)、家族に暴力をふるう(27%)といった暴力的な傾向も目立った。

する。国内で初めてネット依存症外来を開いた久里浜医療センターでは年間約1800人が受診する。未成年が56%、20代が31%で、男性が85%を占める。